

沖縄県地域公共交通協議会 第1回協議会

各委員からの意見等

令和5年7月18日

沖縄県 企画部 交通政策課

広域的な公共交通に関する課題及び対応案について

No	項目	市町村・団体等意見	市町村・団体名
1	新たな公共交通システム	広域及び地域移動の向上、また移動困難者の移動支援を図るための新たな公共交通システム(LRT、BRT、モノレール含む)の導入が必要だと考える。	南風原町
2		大型MICE施設の設置に伴う、将来交通量増大に対応した広域的な交通体系の構築が必要である。 【対応案】・那覇～与那原間の新たな公共交通システムの導入(LRT、BRT等) ・那覇～与那原間を結ぶ新たなバス路線(急行バス等) ・より利便性の高い公共交通網の構築 (ゆいレール首里駅やてだこ浦西駅と大型MICE施設をバス路線で接続する等)	与那原町
3		八重瀬町のバス路線は、国道507号を軸に那覇-東風平間を縦断する路線は多いものの、東西を横断する路線が少ない。そのため、国道507号から外れた地域や、那覇市以外の市町村間を横断する路線が少ないことが課題である。 対応案として、主要幹線道路を活かしたLRT・BRT等の新たな公共交通システムの導入の検討、将来的な人材不足の解消を図るため自動運転車両の導入、南部広域を横断するバス路線等の見直しが考えられる。	八重瀬町
4	広域的な公共交通ネットワークについて	市町村を跨ぐ広域的な公共交通ネットワークについては、沖縄県を中心に検討されるものと考えており、沖縄県および周辺市町村と連携して取り組んでいきたい。	那覇市
5		北谷町から沖縄市山内地域への通院や通勤、通学などの移動ニーズが確認されているが、アクセスに必要な路線バスの状況に課題がある。アクセスの向上を検討するため、中部市町村連携交通会議において、中部圏域公共交通の充実に向けた検討を行っている。	北谷町
6		東海岸地域における円滑な交通ネットワークの形成を図る必要がある。(サンライズベルト構想より) 【対応案】東海岸地域の拠点となりうるマリントウンMICEと沖縄市アリーナを円滑な交通で結び、東海岸全体を使ったイベントを開催する等(アフターMICEを促進するための、大型MICE施設と地域拠点を結ぶ円滑な交通システムの構築等。)	与那原町
7		豊見城市は以下の点が広域的な公共交通に関する課題として認識しています。 ・那覇市や浦添市への通勤通学者が多く、交通手段として自動車の割合が高いため慢性的な交通渋滞が発生し、公共交通機関の定時性確保が困難となっている。 ・高齢化率が20%以上の地区が存在し、高齢化率が急激に進展することが予想され、免許返納後の交通手段の確保が必要となる。 対応としては、沖縄21ビジョンの基本施策3(12)に掲げたとおり、③沖縄都市モノレールの機能強化、④鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入など県と市町村が連携して地域にふさわしい広域的な公共交通ネットワーク形成に向けた取組を推進することが必要と考えます。	豊見城市
8		本島東南部では、公共交通網及び道路網が脆弱である。沖縄県が進める「沖縄県東海岸サンライズベルト構想」にもあるように、東側の魅力・強みを生かし、西側と有機的に繋がり、もう一つの経済基盤を構築していくためには、本島東南部の公共交通の充実が必要。県土の均衡ある発展へ繋がるほか、県全体の交通渋滞緩和にも寄与する。	南城市

広域的な公共交通に関する課題及び対応案について

No	項目	市町村・団体等意見	市町村・団体名
9	移動手段の確保	課題: マリントウンエリア(MICE施設)・周辺地区までの大量移送手段の確保及び交通渋滞対策について検討が必要である。 対策案: 交通渋滞に影響のない公共交通手段の確保、国道329号と与那原バイパスの交差点部の立体整備。	西原町
10	慢性的な交通渋滞について	基幹となる広域的な公共交通が無いため、自動車依存型社会を形成しており、那覇市を中心に慢性的な交通渋滞が発生している。それに伴い、路線バスの定時性・速達性が損なわれており、公共交通利用率の低下の要因となっている。	那覇市
11	まちづくりとの連携	今後の地域公共交通構築には、まちづくりとの連携が必要と考えます。	内閣府 沖縄総合事務局 運輸部
12	都市環境の整備	② バス利用には、バス停まで(から)の移動を伴いますが、本県特有の気候や自動車交通の円滑化を目的とした道路整備により、バス停までの移動が困難になっていると感じます。歩きやすく、自転車が利用しやすい都市環境の整備を望みます。	合同会社 やんばる急行バス
13	運転手不足	・ドライバー不足 ・若年者の免許取得制度によるドライバーの確保検討	有限会社 カリー観光
14		運転手不足等による広域路線の便数減少	中城村
15		運転手不足により、広域的な公共交通についても減便傾向にある。運転手への直接的な支援(手当)の検討をお願いしたい。	沖縄バス(株)
16		・大型2種免許をもつ乗務員の高齢化による将来的な人員不足 対応策として、自動車訓練校に通う方への大型2種免許取得支援や、職業能力開発校や県立高校等での大型2種免許取得コースの新設、そして奨学金給付による学生への支援が考えられます。	(株)琉球バス 交通・那覇バス
17	運転手不足・先進技術導入	交通事業者との意見交換の中で、運転手の不足により新たな交通システムの導入や新規の路線に人員を割きにくい状況であると伺っています。 交通事業者の人材維持・育成につながる支援と併せて、自動運転等の先進技術の導入に早期に取り組む必要があると考えます。	うるま市

広域的な公共交通に関する課題及び対応案について

No	項目	市町村・団体等意見	市町村・団体名
18	広域結節点の検討・利便性向上について	多くの観光客が訪れる沖縄県では、二次交通として公共交通の利活用が重要である。例えば、那覇から名護へ移動する場合、アメリカンビレッジのある北谷町を交通拠点とし、ある一定時間内に北谷町で乗り継いで名護に移動しても、名護直通のバスと同じ料金で利用できるなど、電子的に解決する方法等を含め、地域住民や観光客の利便性を高めることができないか	沖縄観光コンベンションビューロー
19	広域交通結節点の検討・整備	名護市入口に交通結節点を作り、名護以北の二次交通を充実させる必要がある。道路上に出てくる木の枝の伐採を定期的に行い、道路上に出ている枝を避けながら走行しなければいけない状況を改善して頂きたい。	(株)北部観光バス
20		沖縄県におけるバス路線の多くが都市間交通(市町村を越える移動等)であることに伴い、運行距離や運行時間が長く、慢性的に遅延等があることから、本島の各地域において、交通結節点の設置が必要と考える。	県 (文化観光スポーツ部)
21		県民等が利用する交通結節点とは別に観光客の視点に立った2次交通の確保及び観光2次交通結節点が必要なことから、文化観光スポーツ部においては、沖縄県観光振興基本計画に基づき、北谷町に観光2次交通結節点の設置を検討しているため、交通政策課とも連携していきたい。(令和5年度は実証実験として実施予定)	県 (文化観光スポーツ部)
22		北谷町以外の観光2次交通結節点の設置可能性についても連携して検討していきたい。	県 (文化観光スポーツ部)
23		結節するにあたり、時刻を合わせられない。	中城村
24		基幹バスシステムの導入においては、沖縄市側の交通結節点整備という課題があり、現在、本市ではまちづくりと連携した交通結節点整備に向けて取り組んでいる。 中部圏域の公共交通を充実していくには、その中心となる交通拠点が必要であることから、今後とも、国、県、市、交通事業者等と協働で早期整備に向けて取り組む必要がある。	沖縄市
25		・てだこ浦西駅を結ぶ交通網の検討 沖縄都市モノレールでは、3両化を導入し、コロナ後の観光需要回復とともに利用がのびてくると考える。西普天間地区を拠点とした中部方面への移動、ライカム、沖縄アリーナなどに結節していく必要性を感じている。	浦添市
26	本市では交通結節点として総合交通ターミナルの整備に向けた取組を進めており、ターミナル拠点の移転について、沖縄県にもご協力いただきたい。	名護市	
27	市町村で運行しているコミュニティバス、デマンド交通等において、近隣市町村で結節点を設けるなど、沖縄県が主体的な役割を担い、広域連携を図ることで県民や観光客の利便性が高まる。	南城市	

広域的な公共交通に関する課題及び対応案について

No	項目	市町村・団体等意見	市町村・団体名
28	公共交通の利用促進	沖縄県の交通体系は、他都道府県と異なり、大量輸送が可能な鉄道がないため、自動車への依存度が高く、観光客の多くはレンタカーを利用しているが、県外や海外から訪問する旅行者等(観光やビジネス等)において、免許を持たない者や見知らぬ土地での運転を敬遠する者も多いことから、都市間交通(市町村を越える移動等)について、交通手段の確保や公共交通機関の利用促進を図る必要がある。	県 (文化観光スポーツ部)
29	公共交通の利用促進・バス路線の新設について	【西普天間住宅地区に関する課題】 平成 27 年3月に 返還された 西普天間住宅地区において、琉球大学医学部及び同病院の移転が進められており令和 7 年 4 月開学予定である。移転に伴い、大学 病院の 教職員や学生、病院を訪れる 来訪者 等 により、県道 宜野湾北中城 81 号)線等において 交通需要が集中することが想定される。そのため、公共 交通の利用促進 や 新たな路線バスの新設などについて 検討する 必要 があると考えます。	宜野湾市
30	公共交通網の整備について	・中南部の都市地域における慢性的な交通渋滞 自家用車から公共交通機関への利用を推進する必要があります。そのためには、地方自治体や交通事業者が協力し、効率的な公共交通路線の整備や運行を計画する必要があると考えます。	(株)琉球バス 交通・那覇バス
31		国頭村では、路線バスが辺土名までしか運行していないため、辺土名以北の地域については村営バスを運営している。 村営バスについて、観光客の利用が増えてきているのと同時に、乗り継ぎの問合せなどの対応に苦慮している状況である。村民や観光客が分かりやすく満足できるような交通網の整備を確立して欲しい。	国頭村
32	地方路線バスの確保・維持	本村から病院等へ行く際にバスで行ける病院もあるが、路線バスがないためタクシーに乗り換えをしなければならない。また、買い物の利用者についても同じである。	大宜味村
33	路線バスの利便性向上	・高校生の登下校時の利便性について ・登下校時間のみ近隣高校の通学区域を周回するような路線バスの運行などを検討して頂きたい。	沖縄県 (教育庁)
34		路線バスと村内コミュニティバスの乗り継ぎの利便性を向上させるため、コミュニティバスをデマンド運行に切り替える準備を行っています。	東村
35		OKICAの利用普及を図るため、名護バスターミナルだけでなく市内に購入及びチャージできる個所の増加と、観光需要も取り込むため、県外交通系ICカードも連携して利用できるよう沖縄県で取り組みを行っていただきたい。	名護市

広域的な公共交通に関する課題及び対応案について

No	項目	市町村・団体等意見	市町村・団体名
36	路線バスの財政支援(補助制度)について	<p>・北部及び南部の過疎地域におけるバス経営収支の悪化 県や市町村からの補助金や助成金による支援が必要です。住民の需要や移動パターンを調査し、需要に合わせた適切なバス路線の設定や運行回数を検討することが重要と考えます。また、地域振興策や観光資源の活用など、需要を創出する取り組みも行うべきと考えます。</p>	(株)琉球バス交通・那覇バス
37		赤字路線の収益改善が常に課題となっており、具体的な対応策が見いだせていない状況である。	本部町
38		地域間幹線系統の補助要件が厳しい。	中城村
39		市町村で運行しているコミュニティバス、デマンド交通等は、広域的な公共交通の充実に欠かせないツールの一つであるが、財政的な負担が大きい。コミュニティバス購入における負担が大きいほか、路線バス利用における観光客が増加傾向にある中でのバス待ち環境(上屋、ベンチ、乗り継ぎ案内のDX等)の充実などの課題も多い。今後、民間事業者等との共創も必要だが、沖縄県として地域の実情に応じた支援、対策を講じてもらいたい。	南城市
40	通学支援について	県内では、市町村をまたいで通学する学生がいる。交通弱者にあたる学生の時間的経済的な負担は大きい。交通弱者の学生にとって公共交通は欠かせないものであり、通学支援を拡充する等も含め、人口が集中する都市部以外の地域も取り込んだ、より広域的な視点で考える計画にしていきたい。	南城市
41	バス停の整備について	バス停上屋の設置	中城村
42	バスに対する情報発信	広域的な公共交通(網)を担うバスは社会的に重要なインフラのはずですが、「社会的な地位の低さ」を感じる場面が少なくありません。バスに対する県民や観光客のリテラシーを涵養していただきたいです。	合同会社 やんばる急行バス

広域的な公共交通に関する課題及び対応案について

No	項目	市町村・団体等意見	市町村・団体名
43	那覇空港の課題	那覇空港は、県外からの玄関口となっており、多くの利用者があるものの、時間帯によっては、飛行機の輸送キャパと那覇空港到着後の2次交通のキャパ(モノレール、自家用車、レンタカー(レンタカー事業所までの送迎バス)、タクシー、バス(路線バス、空港リムジンバス等))に乖離があることで、繁忙期において、モノレール乗り場、タクシー乗り場、レンタカー送迎バス乗り場、バス乗り場などに滞留が発生している状況であり、那覇空港からの移動は、都市間交通(市町村を越える移動等)が多いことから、繁忙期のみでも構わないので、那覇空港から観光エリアや交通結節点まで、シャトルバス等による移動を検討する必要がある。	県 (文化観光スポーツ部)
44		那覇空港におけるバス乗り場については、方面別のバス乗り場になっていないなど、県外や海外から来る旅行者等は分かりにくいことから、那覇空港国際線ターミナル地域再編事業(高架道路延伸工事)に伴うバス乗り場の再編(国際線のバス乗り場と国内線のバス乗り場の統合等を含む)の検討も必要と考える。	県 (文化観光スポーツ部)
45		都市間交通(市町村を越える移動等)を行う観光客等の2次交通の利用促進及び利便性等の向上のためには、那覇空港において、大型のデジタルサイネージなどを設置のうえ、情報発信等を行うことが必要である。	県 (文化観光スポーツ部)
46		【那覇空港バス乗り場の改善】 那覇空港にある複数のバス停留所が、現在方面別となっていないことや案内表示が不十分なため、観光客にとって非常に分かりづらい状況になっています。対応策の案といたしましては、方面別に再配置していただきたいと考えています。 今後ますます公共交通を利用した観光客の増加が見込まれる中、観光二次交通として重要な交通結節点である那覇空港の利便性向上に向けて是非ご議論いただきたくお願いします。	東京バス(株)
47		・那覇空港周辺の混雑 ・那覇空港からの2次交通の利便性向上 ⇒てだこ浦西駅周辺に大規模レンタカーデポ	沖縄都市モノレール(株)